

海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和7年2月12日～令和7年2月21日

所属：名城大学薬学部薬学科

学年：5年

学籍番号：200973418

氏名：上岡莉奈

1. 参加目的

5年次の実務実習を経て、アメリカの医療現場や薬剤師の働き方を学び日本との違いを自ら考える機会を持ちたいと思った。大学卒業後薬剤師として働くにあたり、この研修で学んだことを生かして自分がどのように医療に貢献できるか、どのような役割があるのかという点を広い視野を持ち考えたいと思い参加した。

2. 研修内容

【研修テーマ】 アメリカの薬学教育や医療制度、薬剤師の職能を学ぶ

【研修日程】

月日	研修内容
2月13日	オリエンテーション、アメリカの薬学教育 インド人レジデント生によるアメリカでの学び アドヒアランス向上における薬剤師の介入
2月14日	故郷からアメリカに渡り薬学を学ぶ過程について（ジャマイカ、サウジアラビア出身のレジデント生より） HIV 感染症、薬剤師の役割と責任についての講義 Tour of Banner-University Medical Center 病院見学 アメリカの医療制度についての講義
2月17日	感染症と高度な患者ケア（現地の薬学部の授業に参加） 注射薬調剤、抗菌薬の投与量決定の実践 ワクチン接種における薬剤師の役割、精神科での薬剤師の役割についての講義 アメリカで薬剤師になるまでの過程について（サウジアラビア出身のレジデント生より）
2月18日	医療の質の向上と研究についての講義 人々の健康、ストレス、燃え尽き症候群についての講義 Pharmacy Museum、Poison Center の見学
2月19日	CVS Pharmacy の見学、お薬手帳についてのプレゼンテーションを実施 微生物と関連する症例の講義（現地の薬学部の授業に参加） アメリカでの薬剤師としてのキャリアについて（レジデント生より） ブプレノルフィンによるオピオイド使用障害の治療について

【研修内容の詳細】

アメリカで薬剤師になるためには、まずプレファーマシーとして2年間基礎科目を学び、その後4年間で日本の大学院のように専門科目や臨床知識といった薬学教育を習得する必要がある。薬剤師として働く前に臨床での実務実習が多く設定されている点が日本と異なっている。アメリカでは薬剤師も薬学生もワクチン接種をすることが認められており、大規模なワクチン接種会場にも薬学生が参加している。また実際の薬局見学でもワクチン接種のための部屋が設置されていることを確認した。見学した店舗では調剤する1日当たりの処方箋枚数が600枚だと聞いてとても多いと感じたが、対応できている理由は、ファーマシーテクニシヤンの存在に加え、アメリカではリフィル処方箋が主流となっており新規薬処方時や患者から相談を受けた時のみ対応しているからである。アメリカの医療制度について、日本のような国民皆保険制度を取っておらず公的な医療保険は高齢者、低所得者、障がい者が対象となっている。その他の国民は民間の保険会社が提供している保険に加入することができるが、義務ではないため所得により選択できる保険と受けられる医療に大きな差が生まれてしまう。日本ほど簡単に医療機関にかかることができないからこそ、薬局薬剤師の存在はとても大きい。2回ほど現地の学生と共に授業に参加させていただき、講義の内容としては感染症や微生物に関してであったが、主に実際の症例を検討するというものであった。薬学部の低学年の段階で症例が取り扱えるのは、プレファーマシーで基礎的な知識を持っているからであり、より多くの症例に触れ考えることで医療現場に出た時に幅広い視野を持って患者に対応できる。また、授業中に先生が学生に問いかけると自由に発言している様子が多く見られ、日本人によくある受け身な姿勢ではなく、自分の考えを伝える積極性の高さを実感しアメリカの文化を感じた。

3. 感想

今回のアリゾナ大学海外臨床薬学研修では、薬学教育や薬剤師としての職能の違いを学び、今後日本の薬剤師がどのように医療に携わっていけばよいのか考えるきっかけとなった。その一つは、薬剤師の調剤業務についてである。アメリカではファーマシーテクニシヤンと呼ばれる職種があり、薬剤師の補佐をしている。彼らはピッキング、軟膏・水剤の調剤、抗がん剤やTPNの調製、監査、在庫管理、患者情報の登録、保険給付手続きなどの業務が認められており、薬剤師は処方内容の最終監査と患者への服薬指導により多くの時間を割くことができる。日本でも患者とのコミュニケーションが重要視されているが、そのためにはアメリカのように業務の一部を薬剤師ではない人でもできるようにするべきだと感じた。将来これが実現した時薬剤師の存在意義を高めるのであれば、患者への服薬指導はもちろんのこと、薬局でのOTC医薬品等の健康相談、ワクチン接種を含めた国民の健康維持にもっと積極的に取り組むことが重要である。ワクチン接種は薬剤師の実施が認められれば、担い手不足が解消され、パンデミックにも対応していけるのではないだろうか。また、チーム医療の中では専門性を生かすことを前提とし、多職種と対等な話し合いを行うために患者の病態や栄養状態についても理解を深め、積極的な意見提示を行っていくことができれば薬剤師がチームで必要とされると感じた。

今回の貴重な経験を活かし自分がどのような薬剤師になりたいかよく考え、社会に必要とされる人材になれるよう学び続ける姿勢を持ちたいと強く感じた。

最後に、このアリゾナ大学海外臨床研修において様々なサポートをしていただいた皆様に感謝申し上げます。